

# 教育研究業績書

所属	職名	氏名	学位
幼児教育学科	助教	中ノ子寿子	修士(人間科学)
<b>I 教育活動</b>			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 1.プレゼンテーションの活用	2018(平30)年4月～ 2021(令3)年1月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「基礎セミナー」「保育内容言葉」「保育内容総論」「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅡB」を、活水女子大学健康生活学部子ども学科で講義「言語表現Ⅱ」(非常勤講師)を、西南学院大学人間科学部児童教育学科の講義「保育原理」「カリキュラム論」「教育実習研究」でゲストスピーカーを担当する際に、講義内容のプレゼンテーション資料を作成、使用することで、学生の講義内容に対する理解が深まるように工夫した。また、講義資料のスライドはハンドアウト資料として配布し、学生が授業外でも授業内容を確かめ、学習に取り組めるよう工夫した。学生からは、特に実習前に授業内容のスライドを再度読み直すことができてよかったという声があった。	
2.グループディスカッションの導入	2018(平30)年4月～ 2021(令3)年1月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「保育内容言葉」及び活水女子大学健康生活学部子ども学科で「言語表現Ⅱ」(非常勤講師)を担当した際には、学生の主体的参加と多面的視野の涵養を目指し、保育事例や提示された課題に対する2人以上でのディスカッション活動を積極的に取り入れて行った。ディスカッション後は小グループでの意見を各自でまとめて発表してもらうようにし、課題に対する多様な意見をクラス全体で共有できるよう意識した。	
3.ロールプレイング(役割演技)型課題発表の導入	2018(平30)年4月～ 2021(令3)年1月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「保育内容言葉」及び活水女子大学健康生活学部子ども学科で「言語表現Ⅱ」を非常勤講師として担当した際には、保育者として必要な技能、即興力、対応力、知識の定着を目的に、講義内で学生一人一人に児童文化財(絵本、紙芝居、素話)や手遊びの実践発表、子どもの言葉を育む保育のための製作物(ペーパサート、スケッチブックシアター、手袋シアター等)発表を課題として提示し、発表者が保育者役、その他の受講生が子ども役となりロールプレイング型発表会を行った。講義後のレポートからは学生がロールプレイングによって保育者と子ども双方の視点になったことによる気づきがあったこと、実際に動いてみることで自分の課題や改善点が見えてきたことが伺えた。	
4.全体への情報共有を意識した授業展開	2018(平30)年4月～ 2021(令3)年1月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「保育内容言葉」「保育内容総論」及び活水女子大学健康生活学部子ども学科で「言語表現Ⅱ」を非常勤講師として担当した際には、講義内での課題や質問について学生が自身の考えを発言する機会を多く設け、学生から出た意見をもとにディスカッションが進められるよう、授業内で出た意見をその場でパワーポイントにまとめたり、Googleフォームを使用してその場で学生同士が意見を閲覧できるようにしたりと、学生が互いの学びから気づきを得られるよう全体への情報共有をしながら講義を展開した。	

5.授業後の学生へのフィードバックを提供	2018(平30)年4月～ 2021(令3)年1月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「保育内容言葉」を、活水女子大学健康生活学部子ども学科で「言語表現Ⅱ」(非常勤講師)を、西南学院大学人間科学部児童教育学科で「カリキュラム論」「教育実習研究」のゲストスピーカーを担当した際には、授業間のつながりと学生の省察の深まりを促すため、前週の課題への学生の回答を次週の授業で紹介したり、回答の傾向を簡易的にまとめて配布したりし、学生が常に自分たち自身の学びを振り返れるようフィードバックを意識して行った。
6.学生同士のフィードバックの機会を提供	2018(平30)年4月～ 2021(令3)年1月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「保育内容言葉」を、活水女子大学健康生活学部子ども学科で「言語表現Ⅱ」(非常勤講師)を担当した際には、講義内で学生一人一人が絵本、紙芝居、手遊び、子どもの言葉を育む保育のために作成した製作物(ペーパーサート、スケッチブックシアター、手袋シアター等)の発表を行う時に、お互いの発表を見あって気づいた「良かった点」「改善点」を記入する評価ワークシートを作成、使用した。ワークシートは匿名で発表者に渡し、学生同士の目線から多様なフィードバックを得られるよう工夫をした。その後、学生からは「他の学生からももらった改善点を踏まえて再度製作物を作り直し、実習の際に使用した」という声が聞かれ、学生同士の学びの促進につながった。
7.実習指導における自身の保育実践体験の紹介	2018(平30)年4月～ 2021(令3)年1月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅡB」、西南学院大学人間科学部児童教育学科で「カリキュラム論」(ゲストスピーカー)「保育原理」(ゲストスピーカー)で、指導案の書き方や実習の心構えおよびマナー、保育士の仕事と意義についての講義を行った。その際には、自身の保育実践経験を踏まえ、学生が具体的に実習や保育者の仕事を想定できるよう実例や写真を交えて説明を行った。
8.学生のE-Learning促進のためのICT活用	2017(平29)年4月～ 現在	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科で「保育内容言葉」「専門研究Ⅰ」「保育内容総論」及び西南学院大学人間科学部児童教育学科での「カリキュラム論」「保育原理」「子ども理解と援助」「教育方法論」(ティーチング・アシスタント)講義の際、学生がICTを活用したより深い学びを獲得するための補助として、E-Learningプラットフォームシステム「Google クラスルーム」や「Moodle」を操作し、授業内容や課題、回答集の掲示、オンデマンド動画の録画や配信、学生への全体連絡等を担っている。
9.実践経験を生かした教育・保育実習指導	2022(令4)年4月、 2023(令5)年4月～ 現在に至る	・尚綱大学短期大学部幼児教育学科における「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅡB」及び西南学院大学人間科学部児童教育学科の講義「教育実習研究」(ゲストスピーカー)を担当した際に、保育所・幼稚園実習に臨む学生に向けて指導案作成と実習の心構えについて講義を行った。その際には自身が保育者として実習生を指導してきた経験を活かし、実習先でのマナー、守秘義務について、日誌の出し方、子どもや担当クラスの保育者との関わり方、指導案や実習日誌、お礼状の書き方等を具体例を用いながら説明した。
(2)作成した教科書・教材・参考書 1.「福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト」作成	2018(平30)年3月	共著:牧野圭一、中ノ子寿子、箕輪順子、相浦雅子、他 発行者:公益財団法人総合健康推進財団 ・福岡県が作成する「福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト～保育実践～」にて保育実務者向けの研修テキストの第一章2.p13-18の執筆を担当。保育士としての実務経験と大学院での学びを活かし、「感性を育てる保育」を展開していくために重要となる視点や意識について読者が考えられるよう、「子どもを中心に据えた環境構成の視点」と「自らの感性を磨く子どもを育む意識」から事例と解説を執筆した。

2.福岡県幼児教育アドバイザーリーフレット作成	2019(平31)年2月	共同研究者:門田理世、諫山裕美子、中ノ子寿子、他 担当箇所:データ分析・リーフレットデザイン草案 ・福岡県幼児教育の推進体制構築事業の一環である福岡県幼児教育アドバイザー巡回訪問事業の成果を調査するため、福岡県から委託を受けた西南学院大学門田研究室で、平成30年度アドバイザーの訪問を受けた乳幼児教育施設や小学校を対象に行われたアンケート調査、結果の分析、リーフレット作成に携わった。調査の結果から、「幼児教育アドバイザーの訪問を受けた施設は再訪問を要望する声が多く、事業の良さを実感していること」「幼児教育アドバイザー制度が園の保育課題を解決する一助となるよう期待されていること」が示された。リーフレットは福岡県で幼児教育アドバイザー事業紹介のために配布されている。
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等 1.佐賀市公立保育所、幼稚園の研究会で報告書作成を担当  2.佐賀県療育支援センター 職員研修会講師 (会場:佐賀県療育支援センター研修室)	2012(平24)年4月～ 2016(平28)年3月  2018(平30)年8月	・佐賀市公立保育所勤務時、特別支援研究会に2年、年長児研究会に1年所属した。その際には大学での卒業研究から得た論の立て方、分析の手法を活かして各園が持ち寄った保育事例の分析、報告書作成の章立てと役割分担の提示等全体の調整役を担い、冊子の印刷、製本までを行った。  ・保育士としての実務経験を活かし、佐賀県療育支援センター職員研修会講師として保育者の仕事と意義について講話と質疑応答を行った。演題「いっぱい遊んで大きくなる～保育所での子どもの姿～」(100分)
(4)その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
(論文)					
保育者・小学校教諭の統一要録活用事態と今後の展望について(査読付)	共著	2019(令元)年12月	保育学研究第57巻2号	共著者:門田理世、諫山裕美子、中ノ子寿子	発表要旨集 p123-136
(学会発表)					
1.ポスター発表 乳幼児教育施設の統一様式を用いた要録の在り方に関する一考察～新要録(佐世保版)2年目の意識調査～	共同	2018(平30)年2月	日本保育学会九州地区第2回研究集会(会場:久留米大学)	共同発表者:門田理世、中ノ子寿子、諫山裕美子	プログラム・予稿集p32-33
2.ポスター発表 1歳児の食事場面における保育者の実践知について	単独	2018(平30)年5月	日本保育学会第71回大会(会場:宮城学院女子大学)		発表要旨集 p.907

3.ポスター発表 佐世保市赤ちゃんふれあい事業(オンライン)の効果と意義ー母親へのインタビュー調査からー	共同	2023(令5)年5月	日本保育学会第76回大会 (会場:熊本学園大学)	共同発表者:中ノ子寿子、門田理世、岩渕善道、増田吹子	発表要旨集 p.951-952
4.口頭発表 4歳児クラスの子どもの他者とのやり取りにおける自己主張表現ー自由遊び場面の観察からー	単独	2020(令2)年5月	日本保育学会第73回大会 (会場:奈良教育大学、オンライン)		発表要旨集 p.317-318
5. 口頭発表 佐世保市赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業における児童の赤ちゃんに対する意識~コロナ禍におけるオンライン交流事業の効果を検証する	共同	2021(令3)年11月	乳幼児教育学会第31回大会(会場:福山市立大学、オンライン)	共同発表者:中ノ子寿子、門田理世、渡邊由恵、岩渕善道	発表要旨集 p.234-235
6.自主シンポジウム 実践者が研究者になるまでの道程を探る		2018(平30)年5月	日本保育学会第71回大会 (会場:宮城学院女子大学)	登壇者:中ノ子寿子、箕輪潤子、渡邊由恵、伊勢慎、諫山裕美子、戸田雅美	発表要旨集 p.208
7.実行委員会企画シンポジウム 「保育学・日本保育学会のこれまでとこれから」		2023(令5)年5月	日本保育学会第76回大会 (会場:熊本学園大学)	登壇者:門田理世、脇信明、野口隆子、無藤隆、秋田喜代美、濱名潔、池田竜介、中ノ子寿子	

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2017(平29)年～現在に至る	日本保育学会会員
2017(平29)年～現在に至る	日本乳幼児教育学会
2023(令5)年4月～現在に至る	社会福祉法人神生会 南ヶ丘保育園 園内研修講師